

主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり ～児童生徒一人一人に合わせたICT機器の活用～

県立千葉特別支援学校教諭 のむら ゆみこ 野村 裕美子



1 本校の研究について

本校は、千葉県教育委員会の指定を受け、本研究に2年間取り組んだ。本研究では、児童生徒一人一人に合わせたICT機器の活用について具体的に検討したり、授業実践を報告し合う会を設けたりすることで、ICT機器を利活用して学ぶ場면을効果的に授業に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげることを目的とした。

2 ICT機器を活用した授業づくり

ICT機器の活用に関して、実態把握から活用場面、活用のねらい、学習内容を検討し、「実態表」にまとめた。

(1)学習意欲と理解度の向上（主体的な学び）

イラストや写真、動画の活用、背景の色分け等の視覚情報の工夫をすることで、学習内容が理解しやすくなった。特に動詞の学習では、タブレットと音声ペンを組み合わせ、動画を見て確認できたことで、より理解が深まり、自分から繰り返し学習に取り組もうとする姿が見られるようになった。

(2)子供同士のかかわりの増加（対話的な学び）

朝の会や帰りの会では、タブレットや音声ペンを活用し、児童生徒が一人で司会進行を行えるようにした。既存の進行カードと組み合わせることで、タブレットに表示されたイラストの意味等もスムーズに理解することができ、これまで教師が担っていた役割を自ら行い、友達に依頼したり、かかわろうとしたりする姿が増えた。課題学習では、プログラミングカーを活用した集団学習を行った。プログラミング的な思考の深まりだ

けでなく、友達と話し合ったり役割分担したりする様子も見られた。また、コミュニケーション手段の一つとしてタブレットを活用することで、相手に伝わったことが明確になり、自分から写真等を選択してやりとりすることが増えた。このように、意図的な場面を設けICT機器を活用したことで、自己選択・自己決定の機会が広がったり、物を介した子供同士のかかわりが増えたりし、対話的な姿が見られるようになった。

(3)自己の課題に気づき次の学習につなげる（深い学び）

振り返りの場面では、動画や振り返りシートを活用することで、自己を客観的に捉え、課題に気付いて解決しようとしたり、次の目標を考えたりする姿が見られた。また、自分が頑張ったことを伝えられる機会も増え、友達同士で話し合っグループとしての評価や目標を考えることにもつながった。

3 おわりに

本校で作成した「実態表」「単元計画表」を基に実践報告会を行うことで、実践を共有し、授業づくりのヒントを得ることができた。学習後には、児童生徒の変容、成果と課題についてまとめる時間を設け、一人一人に合わせた活用について再検討し、活用方法を改善した。併せて、研究の時間にアプリを紹介し合ったり、使い方を教え合ったりすることで、教師の支援技術が向上し、授業の中での活用も増えてきている。今後も本研究の成果を生かし、一人一人に合わせた学びの継続した支援に取り組んでいきたい。